

報道関係各位

(お問い合わせ先)
神奈川歯科大学
社会歯科学講座歯科医療社会学分野
准教授 山本龍生
電話：046-822-8838
Eメール：yama_tatsu@kdcnet.ac.jp

歯を失って義歯を使わなければ

認知症のリスクが最大 1.9 倍に

～厚労省研究班が健康な高齢者 4425 名を追跡して明らかに～

歯の状態と認知症発症の関連が 65 歳以上の健常者 4425 名を対象にした 4 年間の追跡調査で判明しました。郵送調査の後 4 年間にわたり認知症を伴う要介護認定を受けたか否かを追跡しました。その結果、年齢、治療疾患の有無や生活習慣などに関わらず、歯がほとんどなく義歯を使用していない人、かかりつけ歯科医院のない人は、認知症発症のリスクが高くなることが示されました。特に、歯がほとんどないのに義歯を使用していない人は、20 本以上歯が残っている人の 1.9 倍、認知症発症のリスクが高いことがわかりました。さらに、歯がほとんどなくても義歯を入れることで、認知症の発症リスクを 4 割抑制できる可能性も示されました。

<背景>

認知症の人は歯の状態も良くないことが知られている。認知症になると歯の手入れがおろそかになり、歯の状態が悪くなることもあるという報告もある一方で、歯を失うことや歯周病によって、糖尿病や心疾患など、全身の健康状態に影響が現れることが明らかになってきた。

しかし、歯の状態が認知症に影響するのかについては、海外も含め報告がなく、わかっていなかった。

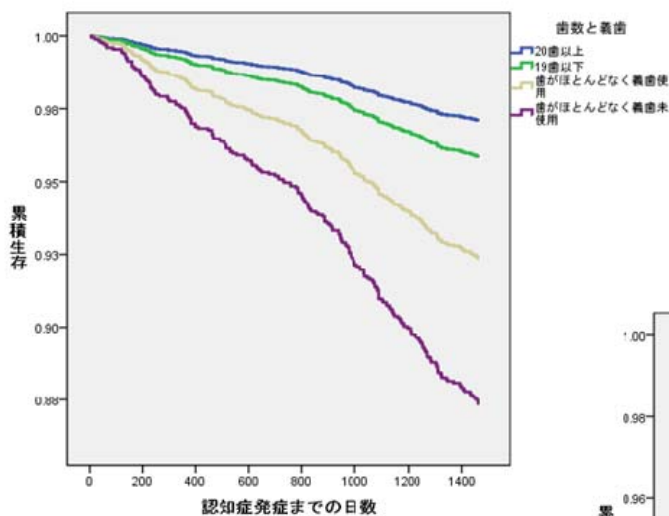
そこで歯の状態、かかりつけ歯科医院の有無と認知症発症との関係を明らかにすることを目的として追跡調査を行った。

<方法>

AGES (Aichi Gerontological Evaluation Study, 愛知老年学的評価研究) プロジェクトの一環として、2003 年に愛知県に居住する 65 歳以上の健常者を対象としてアンケート調査を行った。そして、4 年間追跡できた 4,425 名の要介護認定データを用いて、認知症が発生するまでの日数と、歯数およびかかりつけ歯科医院の有無との関係を検討した。

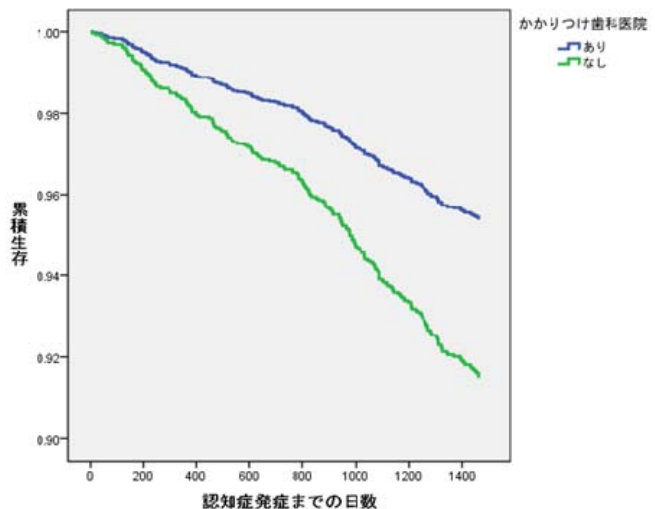
<結果>

調査期間中に認知症を伴う要介護認定を受けた人は 220 名 (5.0%) であった。認知症発症者の割合は、歯数が少ない人ほど (図 1)、そしてかかりつけ歯科医院がない人ほど (図 2) 高くなった。



←【図 1】 歯数・義歯と認知症発症までの日数との関係（累積生存：認知症でない人の割合）

↓【図 2】
かかりつけ歯科医院の有無と認知症発症までの日数との関係
（累積生存：認知症でない人の割合）



認知症発症に影響する年齢，所得，体格（BMI），治療中疾患の有無，生活習慣（飲酒と運動），物忘れの有無を考慮し，リスクの度合いを計算すると，20 歯以上の人に対して歯がほとんどなく義歯未使用の人の認知症発症リスクは 1.9 倍，かかりつけ歯科医院のある人に対するない人のリスクは 1.4 倍であった。

<研究の意義>

歯を失っても義歯を使用しないことによって認知症発症リスクが高まることが示された。歯を失っても義歯を使用せず噛めなくなることによって，栄養が偏ったり咀嚼機能の低下が起こったりし，それらの結果として脳の認知機能の低下を招いている可能性が示唆される。また，ほとんど歯がなくても義歯を入れることで認知症の発症リスクを抑制できる可能性も明らかになった。

かかりつけ歯科医院の有無については，歯科疾患の予防や治療を通じて直接的または間接的に認知症の予防につながっている可能性がある。

この研究は，厚生労働科学研究班（主任研究者 近藤克則 日本福祉大学教授）の山本龍生 神奈川歯科大学 准教授が分析し，アメリカ心身医学会雑誌に掲載された。厚生労働科学研究（長寿科学総合研究事業）の一つとして行われている「介護保険の総合的政策評価ベンチマークシステムの開発（平成 22 年～平成 24 年）」における研究成果である。

論文発表

Yamamoto T, Kondo K, Hirai H, Nakade M, Aida J, Hirata Y. Association between self-reported dental health status and onset of dementia: AGES project 4-year prospective cohort study of older Japanese. Psychosomatic Medicine: Journal of Biobehavioral Medicine. PSY. 0b013e318246dfffb; published ahead of print March 9, 2012, doi:10.1097/PSY.0b013e318246dfffb